

平成31年度 自己評価計画書

							石川県立宝達高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考	
1 生徒の進路志望 100%実現を目指すために、3年間を見通した学力向上とキャリア教育の推進を実践する。 ・学習規律の遵守と家庭学習の確立 ・基礎学力の定着と生徒の学ぶ意欲の喚起 ・各教科科目等の特性に応じた見方・考え方と思考力・判断力・表現力の育成	①	学習規律の遵守に努め、主体的に授業に取り組む態度の定着を図る。	各教科 教務課	「学びの4か条」を掲示し挨拶や学習規律の指導に努めているが、気が緩むと集中力が欠き私語を始める生徒が見られる。	【成果指標】 学習規律を守っている生徒の割合が100%になる。	学習規律を守っている生徒の割合が A：100% B：95% 以上 C：90% 以上 D：90% 未満	C、Dの場合、指導法の改善に努める。	7月・12月に調査 (生徒アンケート)
	②	授業での学習内容が次の授業につながるような取り組みやすい課題を与えてこまめに課題を確認し、褒める機会を増やす。また、個に応じた達成感を持つことができるような目標を持たせ、主体的な学びにつなげる。	各教科 教務課 各学年	ほとんどの生徒が授業以外でも学習に取り組んでいるが、60分未満が大半であり、進路希望達成のためには家庭学習時間の確保が必要である。	【成果指標】 授業以外の学習時間を60分以上確保している。	授業外学習時間が60分以上の生徒の割合が A：70% 以上 B：60% 以上 C：50% 以上 D：50% 未満	C、Dの場合、取組について検討する。	7月・12月に調査 (生徒アンケート)
	③	ICTを適切に活用し、指導方法の改善を図りながら、生徒の学力向上につなげる。	各教科 教務課	各階に移動型のプロジェクターを備えICT機器の利便性を図っている。ICT機器の稼働率は上がっているが、デジタル教科書の実践事例等を教員間で共有し、その利用法について工夫・改善が求められる。	【努力指標】 ICT機器の効果的な活用を図る。	授業のなかで、ICTの活用力が向上したと感じている教員の割合が A：80% 以上 B：70% 以上 C：60% 以上 D：60% 未満	C、Dの場合、取組について検討する。	7月・12月に調査 (教員アンケート)
	④	主体的・対話的で深い学びの充実を図り、思考力・判断力・表現力の育成を図る。	各教科 教務課	主体的・対話的で深い学びの授業の充実に取り組んでいるが、思考力・判断力・表現力の育成のためには、さらなる工夫が必要である。	【努力指標】 生徒に発表等の主体的に活動する機会を与えている。	主体的・対話的で深い学びの授業を取り入れている教員の割合が A：95% 以上 B：85% 以上 C：75% 以上 D：75% 未満	C、Dの場合 取組について検討する。	7月・12月に調査 (教員アンケート)
	⑤	各種研修や地域交流事業における授業参観等を通して、学習指導方法の改善に努める。	各教科 教務課	研修センターの研修や校内互見授業を通して、学習指導方法の改善に努めている。また、地域交流事業で小・中学校の授業を参観し、よりわかりやすい授業を日々模索している。	【満足度指標】 生徒が授業における指示や説明がわかりやすいと感じる。	授業がわかりやすいと感じる生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	C、Dの場合、取組について検討する。	7月・12月に調査 (生徒アンケート)

石川県立宝達高等学校									
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考		
1	生徒の進路志望 100%実現を目指すために、3年間を見通した学力向上とキャリア教育の推進を実践する。 ・学習規律の遵守と家庭学習の確立 ・基礎学力の定着と生徒の学ぶ意欲の喚起 ・各教科科目等の特性に応じた見方・考え方と思考力・判断力・表現力の育成	⑥	上級学校理解・職業理解などを通じて、生徒の進路意識を向上させ、早期に進路目標を設定することができるよう指導する。目標とする進路実現のために学習に主体的に取り組むよう、各学年のキャリア教育を段階的・系統的に関連付けて実施する。	進路指導課 各学年	進路実現のために、基礎学力の向上に継続的に取り組んでいる。進路行事としては「卒業生と語る会」、1年「企業・学校見学」、1・2年「進路ガイダンス」、2・3年「インターンシップ」などを実施し、段階的に生徒の進路意識高揚に努めている。	【満足度指標】 各学年のキャリア学習が、上級学校理解・職業理解などを通じて生徒の進路選択に役立っている。	各学年のキャリア学習が進路選択に役立っているとする生徒の割合が A：95% 以上 B：85% 以上 C：75% 以上 D：75% 未満	C、Dの場合、取組について検討する。	7月・12月に調査（生徒アンケート）
		⑦	生徒ひとりひとりの早期の目標設定を行い、切磋琢磨し相乗効果をあげるための学習グループの形成を目指す。進路ガイダンス、模擬試験、進学補習、作文・面接指導など、系統的・段階的な取組みを実施する。	進路指導課 各学年	昨年度は、希望する生徒全員が進学・就職の進路実現を果たした。生徒ひとりひとりが希望進路に進めるよう、全体指導・個別指導をきめ細かく継続的に実施している。	【成果指標】 生徒の進路実現率が100%になる。	生徒の進路実現率が A：100% B：95% 以上 C：90% 以上 D：90% 未満	C・Dの場合、指導計画・指導法の改善に努める。	12月・年度末に集計（進路指導課）
2	自主自律の精神を持った社会人としての資質・能力を身に付ける。 ・基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚 ・挨拶などのマナーやコミュニケーション能力の育成	①	登下校指導を行い、教師が積極的に挨拶を交わし、全校挙げて生徒によるあいさつ運動の充実を図るとともに、身だしなみ(端正な制服の着こなしと頭髪)を守ることによって、社会人の一員としての自覚を促す。	生徒指導課 各学年	昨年度末のアンケートでは「自ら進んで挨拶ができる」と答えた生徒の割合は8割程度。「頭髪・服装の身だしなみがきちんとしている」と答えた生徒は9割を超えた。頭髪服装検査で不合格となる生徒は、ここ数年でかなり減少してきている。	【成果指標】 挨拶の励行や身だしなみがきちんとしている。	生徒同士や職員、外部の来客や地域の方々に対し、自分から進んで挨拶ができ、服装・頭髪の身だしなみがきちんとしていると答えた生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：75% 未満	C、Dの場合 取組について検討する。	7月・12月に調査（生徒アンケート）
		②	全教職員が協働して、遅刻ゼロ運動を進める。 ・各学年の1日の平均遅刻人数を毎月集計する。 ・遅刻の多い生徒には、個別面談を行い、生活の見直しや改善につなげる。	生徒指導課 各学年	昨年度の1日あたりの遅刻者数は、 1年生 0.11人 2年生 0.56人 3年生 0.42人 であった。7月に比べ、12月の調査では全学年で減少した。	【成果指標】 1日あたりの遅刻者数が減少している。	1日の平均遅刻者数が全学年合計で A：1人 未満 B：2人 未満 C：3人 未満 D：3人 以上	C、Dの場合 取組について検討する。	7月・12月に集計（生徒指導課）

	重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考	
3	宝達高生としての愛校心や自己有用感を高めながら、人間性や社会性を磨く。 ・部活動や特別活動、地域貢献活動の充実と活性化	①	平常清掃の大切さを呼びかけ、積極的な参加を促す。また、環境整備委員等の働きかけによる美化コンクールを通じ、環境美化への自主性を高める。	厚生課	清掃活動にはほとんどの生徒が協力して取り組んでいる。今年度は、環境整備委員を活用し美化コンクールの呼びかけや清掃用具点検など、より自主的に取り組めるよう働きかけていきたい。	【成果指標】 役割分担をし、協力して清掃活動に取り組む事ができている。	役割分担をし、協力して清掃活動に取り組んでいる生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	C、Dの場合 取組について検討する。	7月・12月に調査 (生徒アンケート)
		②	基本的な生活習慣確立のために年間6回「生活自己チェックカード」を実施し、生徒一人ひとりの生活状況やいじめ等の悩みを把握し指導に活かす。	厚生課 生徒指導課	生活自己チェックカードの結果は職員会議等で共有されている。今年度は、生徒が個々に目標を立て、自分の生活改善に取り組めるよう働きかけていきたい。	【努力指標】 生活自己チェックカードの結果を生活指導に活かし、生徒の生活改善につなげる。	生活自己チェックカードの結果が個々の指導に活かされていると答えた教員の割合が A：100% B：95% 以上 C：90% 以上 D：90% 未満	C、Dの場合 取組について検討する。	7月・12月に調査 (教員アンケート)
		③	部活動の組織的運営を図り、積極的に部活動に参加し、年間を通して継続的に取り組むことができるよう指導する。	生徒会課 各学年	年度当初は全員部活動に参加するが、後半には部活動に消極的な生徒が増えてくる。年度途中で退部してしまう生徒への指導に努めることにより、積極的な部活動への加入の取組を促す必要がある。	【成果指標】 継続的に部活動に取り組む姿勢を培う指導ができている。	部活動に参加し、継続的に取り組んでいる生徒の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	C、Dの場合 指導のあり方を検討する。	7月・12月に調査 (生徒アンケート)
		④	生徒会や部単位での活動を主として、地域への貢献活動やボランティア活動に積極的に取り組むことにより、生徒の成長を促す。	生徒会課 各学年	生徒は、地域への貢献活動やボランティア活動に対する意識が高いとは言えず、一部の生徒の活動になっている。年々活動は盛んになりつつあるが、ボランティア活動に対する地域貢献の意識の高揚を図ることが求められる。	【成果指標】 地域への貢献活動やボランティア活動に取り組む姿勢を培う指導ができている。	地域への貢献活動やボランティア活動に取り組んだと答えた生徒の割合が A：80% 以上 B：75% 以上 C：65% 以上 D：65% 未満	C、Dの場合 指導のあり方を検討する。	7月・12月に調査 (生徒アンケート)

4	近隣の小・中学校との連携を密にし、地域に信頼される開かれた学校づくりを推進する。 ・学校の教育活動を積極的に保護者や地域に発信	①	学校からの配布物やホームページ（HP）等の情報を通して、生徒、保護者および地域住民に本校の教育活動を理解してもらう。	総務課 各学年	HPのアクセス数は、昨年度目標を大幅に超えた。今後は学校からの配布物やHP等の情報により、本校の教育活動に対する理解がより深まるよう、適切に情報発信することが大切である。	【努力目標】 本校の教育活動の理解に役立つ最新の情報を提供する。	学校からの配布物やHP等による情報が、教育活動の理解に役立つと答えた保護者の割合が A：80% 以上 B：70% 以上 C：50% 以上 D：50% 未満	C、Dの場合 取組について検討する。	7月・12月に調査 (保護者アンケート)
5	職員は勤務時間を意識した効率的な働き方に努める。	①	限られた時間を意識した働き方を行う。	各課主任 教科主任 部活動顧問	教材研究・授業準備や生徒と向き合う時間を十分に確保できるように、計画的・効率的なタイムマネジメントが必要である。	【努力指標】 見通しを持ち計画的に業務を行う。	見通しを持ち計画的な業務ができた教員の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	7月・12月に調査 (教員アンケート)